

生徒が自ら情報モラル・セキュリティ意識を向上させる取り組み

独立行政法人情報処理推進機構 (IPA)

技術本部セキュリティセンター普及グループ 研究員

石田 淳一

1. 生徒も気づいているインターネットの善と悪

子ども IPA は、児童生徒のみなさんを対象とした「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール」を開催しており、2014 年度に第 10 回目を迎えました。これまでは、インターネットやモバイル端末等を安全に使用するための注意喚起や、ルール・マナーを守ることの大切さをテーマとした「標語」「ポスター」「4 コマ漫画」を募集して参りました。これに加え、第 10 回は小学生向け「書写(硬筆)」と中高生向け「私たちの情報モラル・セキュリティ行動宣言」への取り組みを呼びかけ、2014 年度の応募総数は 50,000 点を超えました。

「私たちの情報モラル・セキュリティ行動宣言」は、中高生のみなさんが自らルールを考え、クラスや学年で宣言するものです。全国から私たちも感心するような行動宣言が寄せられましたので、ここでご紹介いたします。

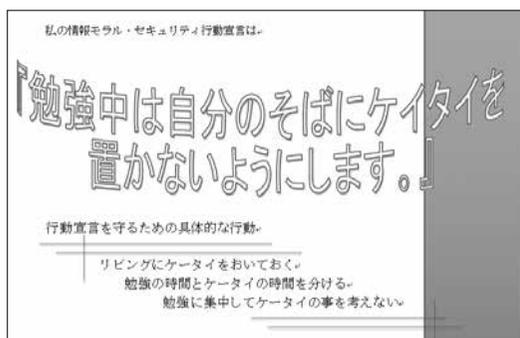


図1 札幌市立新川西中学校生徒による「私の情報モラル・セキュリティ行動宣言」

北海道札幌市立新川西中学校では、受験を控えた3年生が「私たちの情報モラル・セキュリティ行動宣言」に取り組みました。担当の先生は、授業や外部講師による学習だけでは不十分と考え、より実践的な活動を検討していました。そこで IPA の「私

ちの情報モラル・セキュリティ宣言」を採用し、夏休みの必修課題として行動宣言を作成させることを決めました。できる限りワープロソフトを使用して作成するよう促したことで、それまでに習得したイラストの挿入や文字の修飾などの機能を使いこなし、工夫をこらした行動宣言のレポートが作成されました。

生徒のみなさんは、各々が置かれている情報端末の利用環境に合わせ、また、自分の普段の利用状況を客観的に捉え、受験生として必要なルールを決めて宣言を行ってくれました(図1)。

また、新潟県立直江津中等教育学校は、「ネットモラル・セキュリティー行動宣言」として以下の内容をまとめました。

- ㊦ ネットモラル・セキュリティーに関して、学んだことをみんなに広め、伝えよう
- ㊧ よっと待て、「Enter キー」や「YES」を押す前にもう一度よく考え、ウイルスや詐欺に注意しよう
- ㊨ んこう第一、やり過ぎによる寝不足、視力低下に気を付けよう
- ㊩ かうときには誤解が生まれないよう、相手の気持ちを第一に考えよう
- ㊪ きと場合を考え、常識的にネットを使用しよう

取り組みの手順として、まず、各自が行動宣言を考え、その中から投票によって選ばれた数点を生徒と先生とでまとめています。3 学年の集会時に行動宣言を発表したほか、保護者にも学級だより等で周知を行いました。

このほか、岩手県立伊保内高等学校の生徒会が、「携帯電話やスマートフォンの不適切な使用が、情報モラルの低下、いじめへの発展、ネット依存などの問題につながりかねない」と考え、自他を思いやる心や絶対に人を傷つけない人権意識等を養うことを目

的に、「スマートフォン利用マナーアップ宣言」を可決しました。このように、スマートフォンの存在が必要不可欠であると考える中高生は、それゆえに正しい使い方について考える活動を広げています。

これらの行動宣言を見ると、大人に近づきつつある中高生は、私たちが考えるより確実に成長しているのだと思い知らされます。「自分たちで考え、自分たちで決定し行動する」ということは、彼らの自尊心を尊重することであり、大人は、その行動を見守り、必要とされた時に手を差し伸べられるよう常に子どもたちへの関心を持ち続ける必要があるのではないのでしょうか。

2. 子どもと学ぶ情報モラル

内閣府の平成 25 年度の調査によれば、青少年の携帯電話・スマートフォンによるインターネット利用時間は平均 100 分を超え、2 時間以上と回答した割合は 39.8% に上りました(図 2)。

確かに、中高生が肌身離さずスマートフォンを操作している光景は街中にあふれています。ファストフードレストランに集合していながらスマートフォンの画面ばかりを見ている様子や、歩きながらスマートフォンを操作する危険な行為も多く見かけます。実際に、女子高校生が自転車の運転中に携帯電話を操作し、歩行者に衝突した事故が発生しています。相手は歩行困難に陥り、女子高校生は 5000 万円の損害賠償を命じられました。自転車を運転しながら「今」確認しなければいけない内容とは何でしょ

う？一生をかけて 5000 万円を支払う覚悟と同等の重みを持つ情報がそこにあったのでしょうか？歩行者の肢体の自由を奪ってまで見なければいけないコンテンツが何だったのか、私には想像が付きませんが、大人として、子どもたちに注意を喚起する責任があると考えています。

そこで、IPA が実施する出前授業「インターネットは善か悪か」では、このような事件・事故の事例を紹介し、児童生徒のみなさんに普段の行動を振り返ってもらおうよう促しています。

また、子どもたちはもちろんのこと、保護者や先生がたにも情報モラル教育を是非とも受講いただきたいと考えています。子どもたちの学習機会は、大人に比べて少なくなく、受講経験は 10 代で 61.9% でした。しかし、40 代の受講経験は 22.6% と低く、見本となるべき大人が十分に学習できていない実態が明らかになりました(図 3)。

私たちの世代は、機器を操作し、IT 化の波に乗り遅れないようにすることで精一杯で、正しい使い方、安全な使い方、というようなモラルを学んでこなかったのは事実です。しかし、今からでも遅くはありません。様々な組織による教育・学習ツールが公開されていますので、一度利用することをお勧めします。

情報セキュリティ・ポータルサイト「ここからセキュリティ！」¹⁾では、関係省庁をはじめとする IT 関連団体や企業が公開するコンテンツを集約してご紹介しています。例えば、スマートフォンを使用する際の注意点をまとめた動画や、親子で学ぶセキュリティの情報など、150 におよぶコンテンツが、小学生向け、中高生向け、ホームユーザー向けなど対象別に分類されています。自己学習に利用できるほ

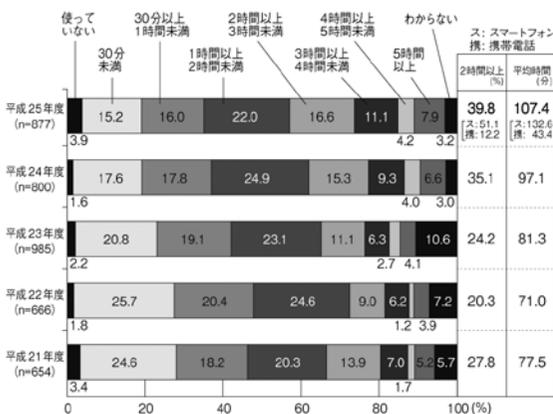


図 2 内閣府 平成 25 年度 青少年のインターネット利用環境実態調査 調査結果(速報)
青少年の携帯電話・スマートフォンを通じたインターネット利用時間(経年比較)

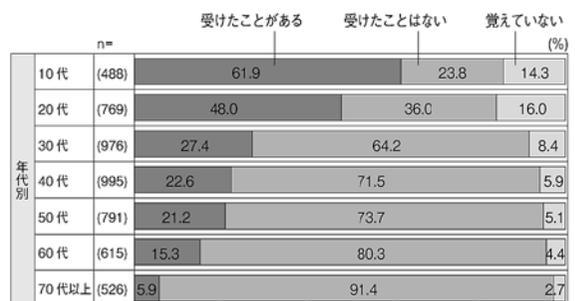


図 3 IPA 2013 年度 情報セキュリティの倫理に対する意識調査 インターネット・情報倫理教育の受講経験



図4 IPA あなたの書き込みは世界中から見られてる - 適切な SNS 利用の心得 -

か、中高生向けのコンテンツは授業の教材として使用できるので是非活用されてはいかがでしょうか。

IPAは、生徒への学習ツールとしてご利用いただける動画も公開しています。スマートフォンのセキュリティやSNSの心得、ウイルス・サイバー攻撃対策など、いずれも10分前後のストーリー構成となっており、授業でも取り入れやすいものです。

「あなたの書き込みは世界中から見られてる(図4)」は、パティシエールを目指してアルバイト中の女子高校生が、つい軽い気持ちでSNSにいたずら写真を投稿しネットが炎上、さらにはお店にもクレームが殺到する、というドラマです。主人公は、友人や知人が公開する、旅行や豪華な食事の写真を見て他人の生活を羨望します。「学校とお店の往復で、ネットに公開するような楽しいことは何もない」と嘆く主人公ですが、私は、ここに現代の若者の間違ったが潜んでいると考えています。

SNSやブログに公開する写真はどのような時に撮影されたものなのでしょうか?この動画のように旅行に行った時のこと、おいしいものを食べた時のこと、どれも「特別な日」の様子を切り取った写真です。日常のありふれた生活の一部、例えば「今日は納豆がおかずです」というようなコメントや写真をネットに公開する人は少ないでしょう。「特別なことだからこそ、誰もが思い出にしたり友人に知らせたいと考え、SNSに投稿するのです。」

しかし、この動画の主人公は、皆が楽しいことばかりの生活を送っているかのように錯覚し、自分も何か羨まれるようなことをしようと考えてしまいます。そして、「不適切画像投稿」を生むのです。誰かの特別な日と自分の平凡な一日を比較することは意味のないことです。自分にも、たまには特別な日があり、友人にもありふれた毎日が続いているので

す。これは、情報化の副作用だと言え、情報を公開する側のモラルだけではなく、情報を見る側のリテラシーが求められているのが現状です。

3. 大人の言い分、子の言い分

インターネットが青少年の自己表現の場であることが、IPAの調査結果で判明しました(図5)。インターネットを利用することで、「普段は表に出せないような自分の考えを出すことができる」と回答した10代は48.8%と、想像以上の数値です。この調査結果を見ると、私たちは、発言を阻害するどのような要因が子どもたちの「普段」の生活の中にあるのかを把握し、インターネット以外のところで発言できる機会を提供する必要があるように思われます。インターネット上の発言が必ずしも悪いもの、というわけではありませんが、人とじかに触れ、対話したり本音で議論したりすることも、生きる力として大切だからです。

また、「(インターネット上では)自分の感情について、素直に言葉にすることができる」と答えた10代も4割を超えていることから、子どもたちは何かしらの閉塞感を感じているのかも知れず、私たちは、情報化という便利さの影に隠れてしまった子どもたちの心の声に耳を傾ける時期に来ているのかもしれない。

教育現場では、このような調査結果をもとに、生徒同士が普段の利用状況について話し合う、お仕合せではない授業を実施することができそうです。また、保護者を交えてのワークショップを実施すれば、

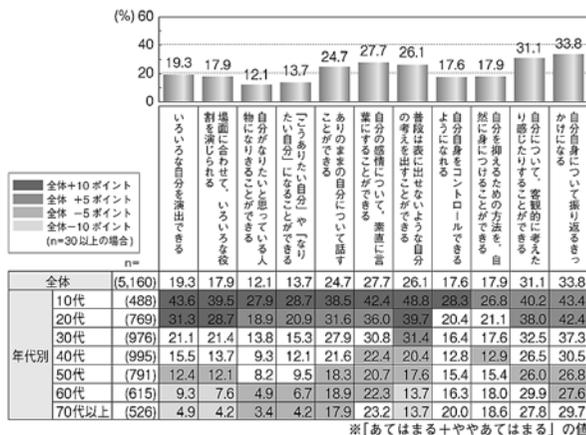


図5 IPA 2013年度 情報セキュリティの倫理に対する意識調査 インターネット上の経験・特徴意識

相互の理解を深めるきっかけとなることでしょう。例えば、生徒に「スマートフォンやインターネットの使い方について大人が思うこと」を考えてもらい、それに対する「自分たちの言い分」をまとめます。一方、保護者や教職員は、子どもたちのインターネット利用について思うこととその理由をまとめます。最後に保護者ととも互いのギャップをどのように埋め、解決するかを話し合う、というものです。保護者の中には、「子どものほうが詳しいから」「信頼して任せているから」と情報モラル教育を忌避する人もいます。しかし、現実としてインターネットを介した事件・事故に青少年が巻き込まれるケースは少なくありません。子どもたちが置かれている環境を良いものにするか否かは大人に責任がある、ということ私たちは今一度認識しなければならないのではないのでしょうか。

4. コンクールを活用した授業

IPAは2015年度も「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール」を開催することを決定しました²⁾。コンクールの目的は、作品づくりをきっかけに、児童生徒のみなさんが一歩立ち止まって普段のインターネットやスマートフォンの使用状況を見直すこと、安心・安全な利用について考えてもらうことです。文部科学省をはじめとする関係省庁や、多くの教育関連団体の後援を受けて、今年、第11回を開催します。

2015年度のメインテーマは、「スマホのルール」としました。「標語」「ポスター」「4コマ漫画」部門はもちろんのこと「私たちの情報モラル・セキュリティ行動宣言」も引き続き募集をします。

以前、「4コマ漫画」は、画を得意とする生徒だけの応募になる、と懸念される先生がいらっしゃいました。しかし、コンクールの後援企業が無料で公開する4コマ漫画作成ソフトを使用すれば、誰もが4コマ漫画部門に挑戦することが可能です。漫画は若い世代にも受け入れられやすく、起承転結で場面を設定し、ストーリーを展開させることができるため、自分たちが経験したハプニングを題材にして身近な作品づくりができます。また、作品を発表することで、情報の授業の根幹となる「他者にわかりやすく伝える能力」を養うことにもつながります。

受賞作品は、ポスターとなり全国の警察や関連団



図6 IPA「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール」2015

体が開催するイベントで展示され、同世代の青少年はもとより大人にもメッセージを伝える大きな役割を担うようになりました。

本コンクールの取り組み方法や、子どもたちの反応をまとめた事例をご覧ください。作品制作が子どもたちにとって自ら調べ、学ぶ機会となっていることが、おわかりいただけると思います³⁾。

是非一度ご覧ください。

★詳しくはIPAコンクールサイトをご覧ください★

<http://www.ipa.go.jp/security/event/hyogo/2015/>



参考文献

- 1) ここからセキュリティ！
<http://www.ipa.go.jp/security/kokokara/>
- 2) IPA「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール」2015
- 3) コンクール取り組み事例
<http://www.ipa.go.jp/security/event/hyogo/2015/jirei.html>